

大相撲 平成 29 年春場所 観戦日記

新横綱の誕生で盛り上がってきた大相撲、これまで千秋楽終了後に 15 日間を振り返って書いてきたが、今場所は 15 日間の日記にしてみることにした。

<初日>

四人の横綱の土俵入り、しかも不知火型・雲竜型それぞれ二力士ずつという豪華版。毎日見ることは出来るのだが、初日の土俵入りには格別の味がある。土俵入りを見ると、取り組みを見る前に横綱の体調がわかることもあるので興味深い。

数年前までは流麗だった白鵬の不知火型は、美しさが欠けてきた。大きく両手を開いてせり上がる時に、肘が曲がって不知火型独特の大きな広がりを感じられなくなってきた。しかも手の指が開いて「気が漏れる」感じがする。白鵬なりに色々工夫を重ねているようだが、数年前の方が美しかった。

日馬富士の不知火型は相撲の気風どおりできびきびしていて気持ちが良い。残念ながらせり上がりの時に前傾しすぎていて、終始土俵上を睨んでいるので表情が見えず、威圧感を見せつける場面にもかかわらず迫りに欠ける。「客席の二三列目に視線を置き、動かさない」とよく言われたものだが・・・。

鶴竜の雲竜型は大分さまになってきた。殆どの横綱がそうだったように、鶴竜も新横綱の頃は所要時間が短かった。慣れてくるにつれて落ち着いて、めりはりをつけてできるようになり、時間をかけられるようになる。雲竜型の特徴である柔和さと重厚さが出てきた。ひとつひとつの動作に間を置くようにするとさらに美しさも増す。

新横綱稀勢の里の雲竜型は、練習時間が短かったわりには上手くできていたような気がする。徳俵の蹲踞姿勢では、大横綱大鵬のような深い腰の割れ方で安定感がある。新横綱の頃は誰もがそうであるように、せり上がりの所要時間が短く、最後の数回が雑になっている。せり上がりは、上段に腰が伸びるまで「小刻みに」「ゆっくり」「最後まできちんと」やる方が美しいと言われている。下段の構えには照國・北の湖にも負けない力強さと美しさがあった。これから回を重ねながら磨きがかかって行くことと思う。(右画像：報道各社の画像を借用)
今場所個人的に注目しているのは、「新横綱の出来栄え」「大関のリストラはどうなるか」「若手の台頭はどんな結果をもたらすか」そして最後に「安美錦は復活できるか」の四点。

初日の相撲を見る限り、稀勢の里は落ち着いてきちんと相撲が取れているし、安美錦は白星でスタートできたが、白鵬が思いもよらぬ足下の乱れ、日馬富士も。「まだ大丈夫」は「もう危ない」かもしれない。

<二日目>

初日はまずまずの相撲だった遠藤、早くも足運びが乱れ始めた。まだ復調はしていないのかもしれない。安美錦は西十両 12 枚目、あと二枚しか残っていない。毎日冷や冷やししながら取り組み結果を見ているが、今日も白星で好発進と言えそうだ。心配しながら見るのも辛いので録画もしていなかったが、大丈夫そうなのでそろそろ十両の録画もしてみようかと思いはじめた。

稀勢の里は、昨日白鵬を破った正代と対戦、難なく裁いて連勝スタート。心の落ち着きと腰の落ち着きを感じ



じさせる相撲でひとまず安心。

大関への復帰をかける琴奨菊と、大関の座を守れるかどうかカギの照ノ富士、大方の心配をよそに二人とも二つ目の白星を並べ、代わりに豪栄道が心配を深めるような負け方。一昔前に巷間ささやかれた言葉「大関互助会」を思い出す。

NHKのTV中継の解説は鳴戸親方（元琴欧州）、ボンボン喋るので聞いていられないどころか耳障り。

<三日目>

日馬富士は蒼国来に初金星を提供して1勝2敗と早くも脱落、案の定白鵬は持ち直してきた。このまま行くと白鵬と稀勢の里の優勝争いになるのだろうか。鶴竜も勢を冷静に裁き3連勝、どこまで続くか注目。稀勢の里は貴ノ岩に十分に相撲を取らせておきながら、常に正対して次から次へと手数を出して、どっしりした相撲ぶりで三連勝。まずは序盤の波に乗ることができたようだ。何よりも表情が良い。

NHKの相撲解説は貴乃花親方。独り言かうわごとかわからないような小さな声でカサカサと喋り、アナウンサーと内緒話をしているような状態で、解説の役割を果たしているとは思えない。最悪の相撲解説で、昨日に引き続き「解説が悪いために見たくない番組」になった。音量の低い解説者の時にはマイクボリュームを上げるとか、事前に大きい声でわかりやすく喋るようにお願いするとか、NHKはすべきことがあるのではないか。

解説者はアナウンサーとの会話のために出演しているのではなく、視聴者に聴かせるのが目的ではないか。

<四日目>

白鵬が勢の勢いにずると後退、足の踏ん張りが効かない状態と見た。勢のここ一年ほどの進歩の跡が感じられる攻め方もさることながら……。足の裏の怪我が尾を引いているようだ。

この取り組みで、行司軍配は勢に上がり勝ち名乗りの動作に入ってから物言いが付いた。このタイミングで物言いを付けるのはおかしいと思うが審判長は却下しなかった。協議の結果軍配通りの結末となったので騒ぎにならずに済んだが、「物言いを付けるタイミングが遅すぎる」という大きな問題を残した。

日馬富士は昨日までにすでに二敗だし、鶴竜も今日琴奨菊の一方向的な攻めに完敗、昔からよく言われたように「荒れる大阪場所」の様相を呈してきた。

ところが、稀勢の里は今日も淡々と落ち着いた相撲で白星を積み上げ、横綱の体面を保ってくれた。これで稀勢の里が独走かと思ったら、照ノ富士が何と大方の予想に反して前進相撲で4戦全勝。攻めて勝っているのも、もしかすると怪我からの回復なのだろうか、高安と並んで不気味な存在になってきた。心配している安美錦は同じ元幕内の富士東を押し出して4戦全勝。何と四日目にして十両の優勝争いのトップに躍り出た。皮肉なことに敗れた富士東は西十両14枚目（どん尻）で4戦全敗、残酷な世界だ。

	全勝	1敗
幕内	稀勢の里・照ノ富士・高安・宝富士・千代翔馬・栃煌山	鶴竜・琴奨菊・石浦・徳勝龍・千代の国・逸ノ城・貴景勝
十両	安美錦	阿武咲・豊響・小柳・旭大星・東龍・青狼・千代丸・大砂嵐

<五日目>

今日から白鵬が休場、やはり足を痛めていたようだ。残りの三横綱はそろって白星で、看板に傷が付かずに済んだが、豪栄道の黒星がどうにも止まらない。白鵬から不戦勝を戴いた御嶽海はこれで3勝2敗、貴重な一勝を手にしたことになるのかもしれない。

この日一番素晴らしい取り組みは高安・正代戦。立ち合いで力強くかち上げ気味に当たった高安、正代の弛み気味な肉体に触れた途端に異様な轟音が響き渡った。両者の立ち合いの鋭さがわかる音だった。しかし、いつもながら胸と顎を出した立ち合いの正代は大きくのけぞり、高安の二の手で土俵に這いつくばった。受け身で守りながら勝機を巧みに見いだす高安が、今日は大きく踏み込む攻めの手に出た。稀勢の里との猛稽古の成果を見せた感じがした。こういう相撲を取り続ければすぐに大関になれるのに。

宝富士が腰の構えよく前に出ながら勝機を探る相撲を続けて5連勝、不気味な存在になってきた。体の張りから見て好調だとすぐにわかる。千代翔馬の切れ味の良い取り口も光っている。

十両で全勝の安美錦は、1敗の青狼に転がされてしまって1敗に後退。しかも1敗力士の中の何人かが2敗

となり、十両の優勝争いは混戦模様か。それにしてもトップ5の内三人は幕内からの陥落組とは・・・。

	全勝	1敗
幕内	稀勢の里・照ノ富士・高安・宝富士・栃煌山	鶴竜・千代翔馬
十両		小柳・旭大星・青狼・大砂嵐・安美錦

<六日目>

高安と照ノ富士の全勝対決、高安が昨日に引き続き鋭い音が響くような立ち合いの踏み込みで大関を退けた。この一番で、照ノ富士が攻め込まれて後退し始めると残り腰が全くなく、怪我の完治にはほど遠いことがわかった。高安が攻めの相撲に転じたとすればこの先脅威となるに違いない。千代の富士との猛稽古で強くなった北勝海を思い出す。稀勢の里は相四つの宝富士を難なく退けてトップの座は変わらず。

西前頭10枚目まで下がった栃煌山の6戦全勝も気になるが、この力士は勝ちパターンではない相撲になればすぐ負け癖がつくのでこの先どうなるか？

石浦・宇良戦は、幕内下位力士同士の取り組みにもかかわらず11本の懸賞がかかった。小兵力士が活躍して面白い取り組みを見せてくれることに価値を感じてくれる人が少なくないことを示している。多くの相撲ファンは「熱戦の結果奇妙・奇抜な決まり手」を期待したが、「押し出し」で宇良の勝ちとなった。しかし勝負が決するまでにはいくつもの曲折があり、全力で戦う両若手力士に大きな拍手が鳴り響いた。

十両では小柳の相撲が光っていて、1敗を堅持、安美錦は新十両の朝乃山に寄り切られて二敗に後退。

向こう正面に座った解説の西岩親方(元若の里)の解説は素晴らしかった。よく聞こえる声でしかも歯切れのよい話し方、アナウンサーの問いかけにスピーディーに答える応答の内容はすべてテレビ機数の観客に届くことを意識して語っていた。その語りの内容も、相撲技術の観点から取り口を分析してコメントしているもので、大変わかりやすかった。

	全勝	1敗
幕内	稀勢の里・高安・栃煌山	照ノ富士・宝富士・千代翔馬
十両		小柳・旭大星・青狼・大砂嵐

<七日目>

両差しになる型に行けなければ何もできなくなってしまうという栃煌山の最大の欠点が出て、折角の全勝折り返しを目前にして隠岐の海に何も出来ずに敗退。

遠藤の今日の相手は今場所動きのよい千代翔馬。まわしの取り方、腰の割り方、まわしの切り方、出し投げの打ち方、どれを見ても教科書通りの、遠藤らしいきれいな四つ相撲が見られた。ようやく4勝3敗。

千代の国・嘉風戦は両者の特色が良く現れた面白い展開だった。最後は土俵際に追い詰める嘉風、引き落としで何とかかわそうとする千代の国は片足一本立ち、しかも残りの一本の足は宙を大きく回りその下を嘉風が落下という面白い終わり方。(左画像：テレビスポーツ画像を借用)



高安は今日も音が鳴り響くような力強い立ち合いの踏み込みで蒼国来を圧倒して全勝を維持。5日目から始まった高安の力強い攻めは何か起きそうな気配で不気味になってきた。

稀勢の里は今日も落ち着いた腰の構えで、御嶽海に十分に相撲を取らせた上で土俵を横断する鋭い寄り身で圧倒しトップを維持。どうやらこの二人に絞られた感があるが、1敗の照ノ富士と2敗に下がって優勝の見込みはない琴奨菊とかがギを握りそうな気配になってきた。後半戦も目が離せないだろう。

安美錦はベテランならではの渋い取り口で、新鋭大奄美を破り5勝2敗。1敗組の敗退が続き、十両の優勝争いのトップは小柳(6勝1敗)だけになってしまった。

	全勝	1敗	2敗
幕内	稀勢の里・高安	照ノ富士・栃煌山	日馬富士 ほか8人
十両		小柳	英乃海・大砂嵐・豊響・旭大星・朝乃山・青狼・安美錦

<八日目(中)>

稀勢の里は松鳳山の健闘に苦戦したが、よく堪え忍んで「小手ひねり」で制した。今場所初めてやや立ち腰で危ない場面も窺えたが、中日勝ち越しとなった。終わってみれば「相手に充分に取らせてから勝つ」という横綱相撲なのかもしれないが、真偽の程は本人にしかわからない。

高安は今日も鋭い踏み込みの音を響かせたが、勢の得意とする型で長い相撲になりかなり苦しむ結果となった。長い相撲の末、下手投げで制したが、あまり息が上がってはいなかったのは稽古の成果に違いない。また、我慢して勝機を待つことができたという見方をすれば進歩したとも言えるのだが、これまた本人のみが知ること。いずれにせよ、この二力士が勝ち越し一番乗りとなり前半戦を終えた。

日馬富士・鶴竜の両横綱が2敗で、照ノ富士が1敗、琴奨菊が2敗と追走しており、賜杯争いはまだまだ波乱の可能性がないわけではない。

賜杯争いとは別に、遠藤・千代翔馬の華麗な相撲と千代の国の機敏な取り口が今日も光っていた。

このところ活躍が著しい新鋭力士たちはどうやら壁にあたった感があり、前場所までのような際だった動きは見られない。この壁をぶち破った者が抜け出してくるわけで、そういう意味では注目に値する。

十両は小柳が臥牙丸に敗れてしまい、2敗力士3人がトップに並ぶ混戦模様となった。

メインの解説は陸奥親方(元霧島)でゲストに元プロボクサーの長谷川穂積が登場。相撲と関係のない話題ばかりを散りばめた上に、この二人の聞き取りにくい個人的な会話が混じり、ひどい実況中継だった。

8日間の相撲中継放送とその中の解説者の語りなどについていくつかのコメントをしてきたが、NHKの相撲中継に対する取り組み姿勢を疑いたくなるようなひどい前半戦だった。

	全勝	1敗	2敗	3敗
幕内	稀勢の里・高安	照ノ富士・栃煌山	日馬富士 ほか5人	(省略)
十両			小柳・大砂嵐・豊響	阿武咲 ほか7人

<九日目>

次世代を担うと思われる若手力士の相撲が面白かった。遠藤は鮮やかな前さばきで隠岐の海を下して6勝3敗。腰の構えが安定していて遠藤らしさに溢れた取り口になってきた。これだけ基本がマスターできている力士がなかなか上位に定着できないのだから、勝負の世界は厳しい。

北勝富士・貴ノ岩戦は流血の戦いとなり、会場は大いに沸いた。長い戦いの末北勝富士が寄り倒しで制したが、勝ち名乗りを受けた後で意識朦朧となり立ち上がることが出来ぬほどだった。鼻血で顔は真っ赤だし、相手の貴ノ岩の胸も真っ赤になる大熱戦だった。上位の壁に阻まれて星数の上がらない力士同士の戦いだったが、観客席は大喜び。割れるような拍手大喝采の後、直立歩行困難な北勝富士を見て会場は一瞬静寂に。東西の小結になった御嶽海・正代も今場所は高い壁に阻まれて苦しんでいる。低い姿勢でおっつけ、はず押しの御嶽海と腰高で胸を出して取る変則的な相撲だが柔らかな体で流れの中で臨機応変に対処していく正代という対称的な組み合わせ。基本に忠実な取り口で、下から下から攻めていく御嶽海に凱歌が上がった。

高安は対戦成績では苦戦中の豪風を叩き込み、稀勢の里は琴奨菊にやや攻め込まれはしたが、落ち着いた対応でさばき二強の並走は変わらず。1敗の両力士もびったり付いてきており、とりわけ前に圧力をかけて攻め続ける相撲の照ノ富士が不気味な存在になってきた。

十両の優勝争いは日々変化を続け、2敗(二人)・3敗(四人)の争いになり、益々混沌としてきた。

安美錦は平成3年生まれ若手剣翔に敗れ5勝4敗。時代の流れに抗うことができるだろうか。

今日も鳴戸親方(元琴欧州)の解説でがっかり。

	全勝	1敗	2敗	3敗
幕内	稀勢の里・高安	照ノ富士・栃煌山	鶴竜・千代翔馬	(省略)
十両			大砂嵐・豊響	小柳・阿武咲・英乃海・照強

<十日目>

嘉風が鶴竜を粉砕して幕内の2敗力士はいなくなり、優勝争いは依然として一差で走る四人に絞られた感がある。嘉風の健闘もさることながら、翻弄されまくった鶴竜の相撲もいただけない。

全勝の稀勢の里・高安は今日も無難に乗り切り無傷の10連勝。相撲の力強さは高安の方が勝るかもしれないが、取り口の落ち着きは稀勢の里が勝る感じがする。千秋楽相部屋決定戦まで持込んだら……。ここ数日の取り口を見ていると、照ノ富士が尻上がりに調子を上げてきている感じがする。立ち合いの大きな踏み込みで腰を沈めて素早く前みつを取り、速やかに腰を移動して相手陣地に重心を移していく全盛期の白鵬のような立ち合い。稀勢の里にとっては最大の難敵になりそうな気がしてきた。十両でも好成績者同士の戦いが続いて星のつぶし合いになり、2敗は小柳だけになった。こちらも3人に絞られたような感じになってきた。しかし十両では星のつぶし合いの末優勝ラインが11勝になることは珍しくなく、10勝5敗で優勝決定戦ということもあったので、まだまだ楽観は許さない。安美錦の白星ペースが三日に一回ぐらいになり、前半の貯金を食いつぶしかけて6勝4敗。見ている方も疲れてきた。

	全勝	1敗	2敗	3敗
幕内	稀勢の里・高安	照ノ富士・栃煌山		日馬富士 ほか5人
十両			大砂嵐・豊響	小柳

<十一日目>

宇良・石浦ともに会場を沸かせる「らしい相撲」で白星を得て、二人とも6勝5敗。勝ち越しの可能性が見えてきた。「銭の取れる力士（見せ場を作ることができる力士）」という言葉がぴったりする。毎場所少しずつ成長の跡を感じさせる千代翔馬は、今日も絶妙な取り口で大翔丸を下し8勝3敗。技能賞をあげたくなるような相撲が続いている。

栃煌山・千代の国戦、例によって千代の国の土俵際の粘りによって物言いがつき「団体」で取り直し。しかし取り直し後の一番では千代の国が立ち合いに変化し、それを見逃さなかった栃煌山が楽勝。千代の国は前の一番の疲労が残っていたのかもしれない。栃煌山は10勝1敗を堅持し、これまた不穏な存在。

照ノ富士は相撲巧者荒鷲の善戦に苦しんだが、最後は力強い相撲で逆転しこれまた1敗を死守。高安は横綱鶴竜に上手く取られてしまい、何も出来ずに敗退。今場所の高安の相撲としては珍しい「完敗」で1敗に後退した。

一方稀勢の里は、二日連続の金星を狙って気合いが入っている嘉風を「鶏を追うように」落ち着いて裁いて先頭の座は明け渡さなかった。

十両は、2敗の豊響と3敗の小柳が敗れて、大砂嵐が単独トップになった。

安美錦は竜電に敗れて6勝5敗に後退。明日の相手は負け越し寸前の琴恵光、ただ一言だけ「ガンバレ」。

	全勝	1敗	2敗	3敗
幕内	稀勢の里	照ノ富士・高安・栃煌山		日馬富士・鶴竜・千代翔馬・徳勝龍
十両			大砂嵐	豊響

<十二日目>

栃煌山が今場所不調の妙義龍に一方的な相撲で敗れ、毎度の事ながら自分より前さばきの良い力士に先手を取られると何も出来ないという欠点を暴露して2敗目。いつもの栃煌山らしい崩れ方が始まるのかも。

琴奨菊は宝富士の腰の座った取り口に何もできずに完敗、「10勝5敗で大関復帰」は風前の灯火に。

遠藤の理詰め相撲に弱い照ノ富士、今日は何かが起きるかも……と遠藤に期待がかかった。期待に違わず両差して土俵際まで追い込んだのだが、何と照ノ富士は肩越しに取った上手で振り回して逆転勝ち。

稀勢の里は荒鷲を難なく始末して白星をさらに重ねたが、高安は日馬富士の疾風怒濤の立ち合いに驚く間もなく、小股すくいで見つめられ、「気合いの差」を見せつけられた。高安のこの二日間の相撲は「人が変わったようなひどさ」で、勝ちを意識しすぎての萎縮か迷いなのだろうか。高安・栃煌山が後退したこともあり、千秋楽まで三日あるので数字の上では様々な可能性は考えられるだろうが、優勝争いは稀勢の里・照ノ富士に絞られたと見るのが妥当だろう。明日からの上位力士同士の取り組みが面白くなってきた。

十両の優勝争いにも変化があった。期待の若手小柳が4敗に後退して大砂嵐・豊響に絞られた。

安美錦は、祈りが届いたせいだろうか琴恵光を叩き込んで7勝5敗までこぎ着けた。明日の相手も負け越

し寸前の元幕内の北太樹。北太樹も幕下陥落を回避するためには最低あと1勝必要。さらにさらに残酷な取り組みが続く。

	全勝	1敗	2敗	3敗	4敗
幕内	稀勢の里	照ノ富士	高安・栃煌山	日馬富士	鶴竜 ほか5人
十両				大砂嵐	豊響・小柳・照強

12日目まで終わったところで三賞の行方を勝手に想像してみた。優勝の行方を左右した三役以下の力士は、高安・栃煌山。優勝力士に黒星を付けた力士は誰か、まだわからないが、高安の可能性はある。しかし高安のこれから三日間の出来栄により殊勲賞の行方は変わるかもしれない。技能賞は、切れ味の良い相撲で好成績を上げている栃煌山か千代翔馬あたりか。敢闘賞は千代の国・千代翔馬・栃煌山あたりか、はたまた殊勲賞該当者なしの場合は高安が敢闘賞という案も考えられるが・・・。

<十三日目>

栃煌山は遠藤に全く良いところなく敗れて3敗に後退、高安も嘉風に好きなように取られて前半戦の活気はどこへ行ったのやら。引き上げていく足取りを見ると足を痛めているような感じがする。

照ノ富士は鶴竜に両差しを許して最早これまでと思ったら、外四つから吊り上げて振り回して逆転。昔の乱暴な照ノ富士相撲が復活したようで手の打ち様なし。

そして、なんと結びの一番で大事件が勃発。立ち合いの鋭い突っ込みで機先を制した日馬富士が稀勢の里を土俵下まで一気に運んでしまった。土俵下に転げ落ちたときに肩あたりを痛めたようで、稀勢の里は立ち上がることもできぬ状態。

1敗で稀勢の里・照ノ富士が並ぶことになってしまったが、現時点では稀勢の里が明日以降相撲を取れる状態か否かわからない。ことによると棚からぼた餅が照ノ富士の所に落ちてきたことになるかもしれない。十両は心配したとおりの混戦模様になってきた。大砂嵐が敗れて4敗となり小柳とトップを並走、その後ろに8勝5敗の6力士が並ぶという展開。あと二日間、好調力士同士の星のつぶし合いが続くので、優勝ラインが10勝5敗になり決定戦になる可能性も出てきた。そして、何と安美錦は8勝5敗で6人衆の中に残っている。明日の相手は勝ち越しをかけた千代丸、まさにサバイバルレース、再び緊張の祈り。

	全勝	1敗	2敗	3敗	4敗	5敗
幕内		稀勢の里・照ノ富士		日馬富士・高安・栃煌山	(省略)	(省略)
十両					大砂嵐・小柳	6人

<十四日目>

貴景勝・栃煌山戦 栃煌山の栃煌山らしい崩れ方が始まり、あれよあれよという間に4敗目。貴景勝の押しは強いが体の移動が伴わない欠点が散見する、まだ未完成な押し相撲。これを裁けないのが栃煌山。

両力士とも10勝4敗で14日目を終わった。貴景勝も敢闘賞候補の一角に登場するのもかもしれない。

遠藤・輝戦 立ち合いに鋭く突っ込んでくる力士に何もできないという遠藤の欠点が露見した一番。腰の低い遠藤が腰高の輝に突き起こされてしまうという不始末。やはり今場所も千秋楽を7勝7敗で迎えることになってしまった。

御嶽海・千代の国戦 基本を身につけて毎場所着実に力を付けて来ている御嶽海。脇を固めた厳しい攻めで8勝目を上げ小結の座を守ることができた。来場所以降の飛躍が期待される。

松鳳山・正代戦 攻めの松鳳山に受け身の正代、相撲スタイルの差がそっくり勝負の結果となって表れた。正代の将来を有望視する声をよく聴くが、こういう取り口を見る限り有望力士とは思えない。

照ノ富士・琴奨菊戦 大関から陥落した手負いの関脇を立ち合いに変化して叩き込むとは・・・。会場からヤジや怒号が飛び交った。今場所の状況から、普通に相撲を取れば負けることはないはずなのに、目先の一勝だけに拘る「好かれない力士」にならないことを祈るのみ。ぼた餅は棚から落ちかけているのに。

日馬富士・玉鷲戦 場所毎に磨きがかかってきた玉鷲の突きに横綱は全く対処できず。「日馬富士よお前もか」の4敗目。それにしても、玉鷲のインタビューの受け答えは人柄が表れていて、見ていても楽しさが伝わってきて、清々しい気持ちになる。玉鷲はこの一番で勝ち越して関脇の座を守った。

稀勢の里・鶴竜戦 前日の苦悶の表情から見て、誰もが休場を予想していた稀勢の里が強行出場。新横綱という立場で休むわけにはいかない複雑な心境もわかるが・・・、そして、案の状の結果。

十両の優勝争いは大きく後退して、9勝5敗が6人並び、優勝決定戦は不可避の状態。

	全勝	1敗	2敗	3敗	4敗	5敗
幕内		照ノ富士	稀勢の里	高安	(省略)	(省略)
十両						大砂嵐・阿武咲・豊響・力真・小柳・朝乃山

<千秋楽>

安美錦は新鋭5敗の小柳を優勝争いから引きずり下ろして、自らも9勝6敗で場所を終えた。

そして、十両は10勝5敗の大砂嵐・豊響・朝乃山の三人で優勝決定戦を行うことになった。巴戦の一巡目で豊響が連勝して、わずかな時間の間に優勝が決まった。豊響の十両優勝は三回目。

千秋楽の幕内の最初の取り組み、大栄翔・琴勇輝戦は見応えがあった。大栄翔の突き押しに凱歌が上がったが、敢闘賞をあげても良いような見事な押し相撲だった。

入幕二場所目、押し相撲の貴景勝と前さばきの良い千代翔馬との取り組みも面白かった。前まわしをつかめば威力を発揮する千代翔馬がどんな動きをするか興味深かったが、貴景勝の休まぬ突き押しが功を奏した。

11勝4敗で初の敢闘賞受賞。敗れた千代翔馬は9勝6敗に終わったが、中身の濃い15日間だった。

遠藤は遠藤らしい相撲で栃ノ心を制して、ようやく勝ち越しに漕ぎついた。勝った相撲には復活を感じさせる



内容があったが、負けた相撲にはまだまだの感じも見える。来場所に再び期待というところか。

(左画像：遠藤・栃ノ心戦)

御嶽海は脇を固めた鋭い押し相撲で栃煌山を引き落として9勝6敗。二度目の小結の場所を締めくくり、今後に繋がる大事な一步を記した。

高安は快調に突き押しを繰り返す玉鷲を力強い相撲で寄り切り、12勝3敗。殊勲賞に輝いたが、相撲記者クラブは照ノ富士の優勝の可能性が高いと読んで高安を選んだのではないかと考えられる。

優勝を決する大事な一番「照ノ富士・稀勢の里」、会場は尋常ではない興奮に包まれた。前日の琴奨菊戦で大阪の相撲ファンを怒らせてしまった照ノ富士、一方では判官最良のおおかたの日本人は、勝てる可能性がないのに出てきた稀勢の里に半ば同情と憐憫も加わり騒然とした状態。どちらの力士も怪我が元で十二分な力を出せる状況にはない中で、半端な相撲を取るわけにも行かない。相撲を取る本人たちも苦しい土俵に違いない。左手を殆ど使えない状態の稀勢の里が、必死の右からの突き落としで照ノ富士を破り相星に引きずり下ろした。

優勝決定戦も土俵際まで運ばれた稀勢の里が、タイミング良く右からの小手投げを打ち勝利を収めた。

本割りと決定戦と二番を通じてよく見えたのは、「稀勢の里は右手一本しか使えないのでやや腰も高め」

「照ノ富士は素早い膝の動きが出来ず足運びが不安定」という両者の不具合の状態。その中でタイミングを逸すれば自滅に繋がる恐れのある突き落としや小手からの振りを「絶妙なタイミングで」決めた稀勢の里が連続優勝を手にした。

	全勝	1敗	2敗	3敗	4敗	5敗
幕内			稀勢の里・照ノ富士	高安	(省略)	(省略)
十両						大砂嵐・豊響・朝乃山

終わってひとこと

今場所の見所としてあげた「新横綱の出来栄え」については、白鵬・豪栄道の休場もあり日馬富士・鶴竜の不出来さもあり、アクシデントもありはしたが「横綱が優勝」という治まりを付けることができたので、まずは「よくやった」という評価になるだろう。

「大関のリストラはどうなる？」については、照ノ富士が優勝戦線に絡めるところまで復活した反面、豪栄道は休場し琴奨菊の復帰はならず。まさに稀勢の里の抜け出しも含めて「大関陣の再構成」ということになるのだろうか。次の大関を狙える位置に高安が控えており、来場所出場する豪栄道にとってもより厳しい環境が待ち受けていると見ている。

「若手の台頭はどんな結果を・・・」については、白星の数には拘らず相撲内容をよく見れば「抜き出てきそうな力士」が見えてきた感じもする。御嶽海・遠藤・貴ノ岩・北勝富士・大栄翔・貴景勝らがじわじわと力を付けて来ており、宇良・石浦のような若手の小柄な力士も登場し、確実に次の時代に向かう動きが始まっているように感じる。来場所もその次の場所も、しばらくは目を離せない状況が続きそうである。

そして極めて個人的なテーマだが、私が大好きな「安美錦は復活できるか？」については、9勝6敗をあげたことで幕下への陥落は回避できた。来場所は三枚から五枚ぐらい上に上がることが出来るだろうと思う。従って、今場所と同様の成績を続ければ九州場所か来年の初場所までには再入幕が可能と勝手に描いてみた。年齢なりの下降線と協調を図りながらの奮闘を応援したい。

以上